

生活科学学習指導案

授業者 中野 満里子

1. 日 時 平成27年7月1日(水) 第5限

2. 学年・組 2年1組 23名

3. 場 所 運動場

4. 単元名 「土や水であそぼうよ」
～土っておもしろいね～

5. 単元目標

土や砂に触れたり、工夫して遊んだりして、友だちと遊びを楽しむことができる。

6. 単元評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気づき
・土や砂を使った遊びに関心をもち、友だちと関わりながら楽しく遊ぼうとしている。	・友だちと協力しながら、身の回りの物を利用して遊びを工夫している。 ・土・砂遊びにおいて、自分なりに遊び方を工夫している。 ・夏の遊びで楽しかったことや気づいたことを表現している。	・土や砂の特性に気づいている。 ・土や砂の特性を使って楽しく遊べることに気づいている。

7. 指導にあたって

子どもの様子

子どもたちは、明るく元気で活発な子が多く、男女の仲が良い。優しい子が多く、何か困ったことなどがあると助け合う姿も見られる。授業中は、何事にも意欲的に活動することができ、手もよく挙がっている。

しかし、自己表現の消極的な子も多く、自分の思いや考えをもっているが伝えられない

子もいる。さらに、自分の思いばかりを伝えるので、自己中心的な発表になってしまうこともある。そこで、マイテーマである「友だちの考えを認め、自分の思いを伝えられる子」と関わって、朝の日直のスピーチや自分の考えを書いたワークシートをもとにした発表を行っている。普段はなかなか発表で思いを伝えられない子も、自分の思いや考えを発表することができ、また、質問に答えることで、発表している子の思いや様子を知ることのできる時間となっている。

休憩時間には、生き物を捕まえてきたり、自分たちが育てている生き物のお世話をしたりしている子どもがいる。しかし、土など自然の素材に触れて遊ぶ経験が少ないようである。子どもたちに聞くと、幼稚園の時までは、土で遊んでいたという。しかし、小学校に入学してからは、休憩中に土で遊ぶことはなくなっていた。また、土遊びをする場所がなく、砂場の土も固いため、遊具やボールを使って遊んでいる。そのため、土で遊ぶ機会が減少している。

生活科学習について

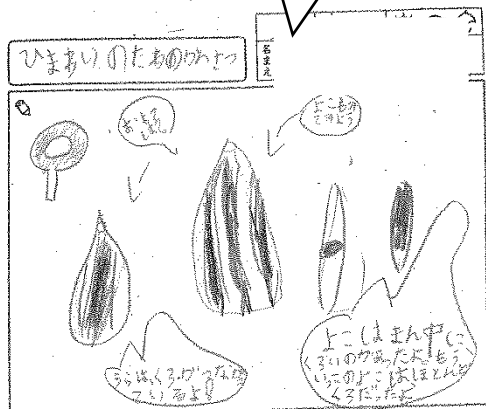
生活科では、1年生に学校を案内するために、一緒に学校探検を行った。2年生のお兄さん、お姉さんとして、1年生のお世話をしながらグループごとに校内を探検した。

また、春見つけも行った。タンポポや大根の花、クローバーなどの植物を見つけ、諸感覚を使いながら観察をした。それぞれ気付いたことを表現をする練習をしている。また、子どもたちは生き物も大好きで、休憩時間などに見つけてきた生き物を捕まえてきては、飼育している。しかし、虫かごに入れたままで、そのままにしてしまうこともあった。最近では、カエルを捕まえてきては、エサが必要だからとバッタを捕まえてきている子もいる。昆虫の飼育をしながら、命の大切さも感じて欲しい。

学年では、一人一鉢でトマト（リリコ）を育て、成長していく様子を観察している。「花が咲いた。」「実ができてきた。」と喜びながら成長していく様子を諸感覚を使いながら、観察している。観察して気づいたことを絵や文を使いながら記録することができるようになってきている。しかし、まだ、感想だけの記録をしている子どももいる。今後も継続して観察することで、観察の仕方を身に付けさせたい。

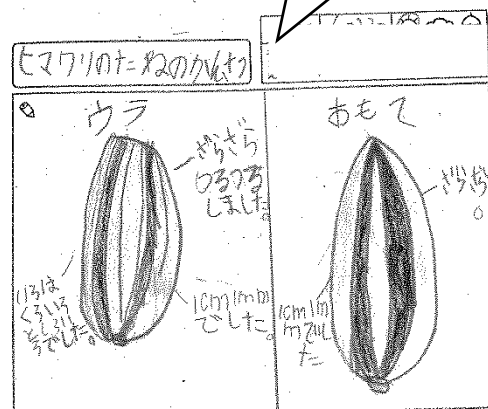
子どもたちは、実ができてきたため、早く食べられるのを楽しみにしている。

気づいたことを絵だけでなく、
文でも記録している。



● におのうえのところにあな^かあいて
いくつそいてみるとま^{くろ}ですご
かったよ。か^んさつをするの^はも
もときでいろいろ^なこと^があります。た
えばお^なむしか^いつりていた^り
ほとんど^はくろ^いの^とな^りぱ^りかん

表と裏の様子の違いや長さなどを
記録している。



● 1cm1mm^的でした。ウ^ラ
か^さざ^らざ^らして^いま^して^いま^した。
オ^モテ^かつ^るつ^るして^い
ま^した。ヒ^マワ^リの^たね^か
き^れい^でし^た。

単元について

本単元は、小学校学習指導要領解説：生活編 生活科の内容（6）「身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりなどして、遊びや遊びに使うものを工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」を受け、設定している。

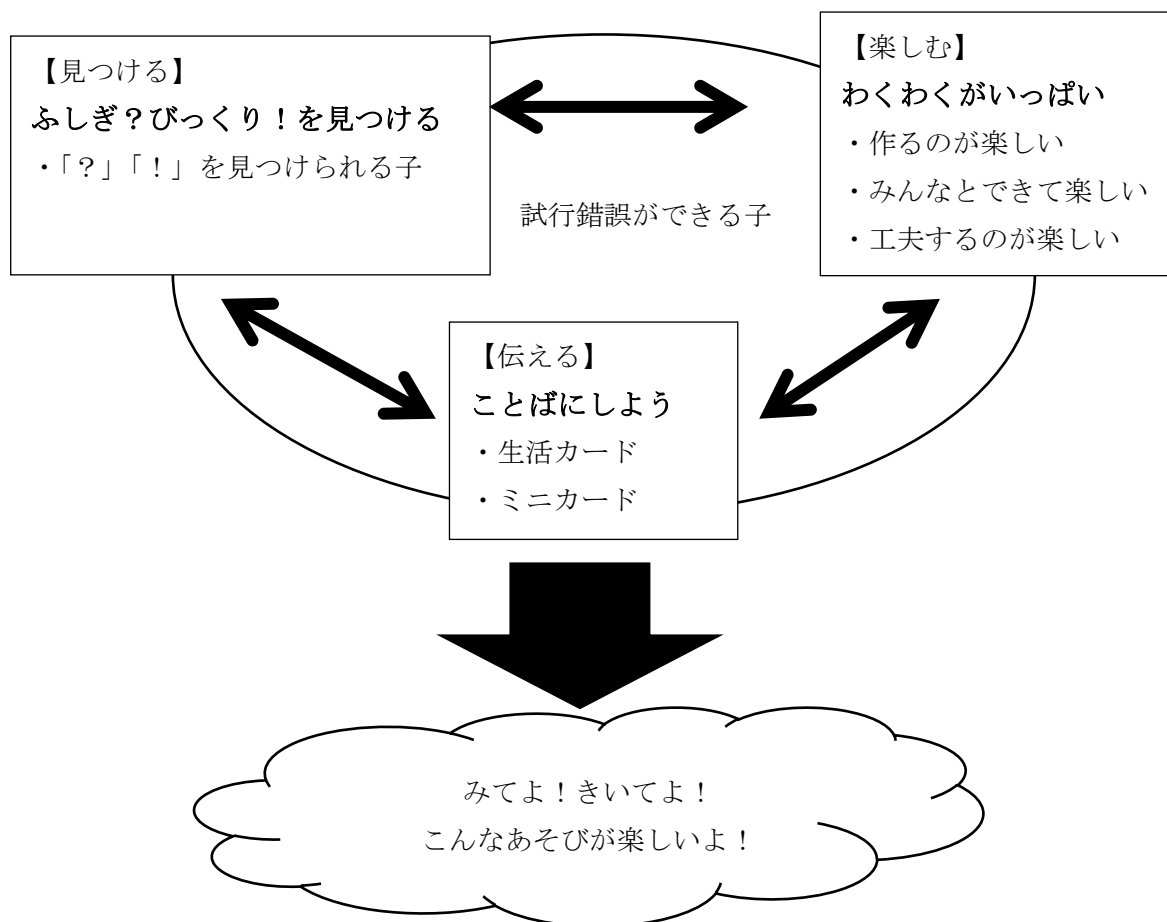
今回の身近な自然とは、石、砂、土、光、影、水、雨などの事物や現象である。また、身近にあるものとは、子どもが遊びを工夫するために選び出すものであり、ポリ袋、ヨーグルトの空き箱、ペットボトル、牛乳パック、紙コップなどである。

砂に水をかけたらどろになり、それを丸めていくうちに固くなり、乾いた砂をかけるうちに黒くなってきて、光りはじめるというところに子どもたちは、不思議さを感じるだろう。何度も何度もこする中で光ってくる団子に驚きを感じる子どももいるだろう。

色々な場所の砂を「比べる」活動を通して、場所により、土の温度や粗さが違うことに気づくだろう。また、何度も「繰り返して」砂をかけたり、土を固めたりすることで「どうしてかな」と疑問も生まれるだろう。また、水を流して川に見立てて遊んだり、山を作りトンネルを掘ったりする活動に発展することで、土と親しみ、より友だちと協力し、楽

しく遊ぼうと知恵を出し合う姿が見られると考えた。さらに、遊びを作り出したり、友だちとの関わりをもったりすることで、土を使って遊ぶことの楽しさを感じさせたい。

また、色々な土を比較したり、遊びを工夫したりする経験が、3年生からの理科学習の土台になれば良いと思う。



本時について

本時では、土遊びの中で、子どもたちが作り始めたどろだんごをより自分が作ってみたいと願うどろだんごにするために思いっきり試行錯誤させたい。

どろだんごを丸める時に使う土の選び方、丸め方、丸くなっただんごにまぶす砂の選び方、砂のかけ方、だんごの磨き方などにその子なりの工夫が必要となってくる。丸めるための土の湿り具合の調整、まぶして磨く砂のさらさら具合や砂の温度など、何度も何度も試す中で、良い方法を見つけ出せるだろう。

また、土や砂の状態は、その日の天気によって大きく左右される。同じ砂場の砂でも、木の陰になっている砂とよく日が当たっている場所の砂では、手触りも温度も乾き具合も違う。だんごを磨く時の力の入れ具合、磨く時にふさわしい布の選び方も、やってみて気づくことはたくさんあるだろう。心をこめて作っているどろだんごでも、気を抜いて落したり、力を入れてこすり過ぎて皮膜が剥がれたりすることもある。自分が納得

できるどろだんごを仕上げるのは、とても根気のいる作業である。

だからこそ、できた時の感動は、大きいものであり、達成感を味わうこともできると考えられる。できたという感動は、友だちに「見てほしい。」「聞いてほしい。」という思いに繋がるだろう。「なぜ、土によって手触りが違うか。」「なぜ、どろだんごは光るか。」「なぜ、ひびが入ってしまったのだろう。」などいろいろな「？」を見つけてほしい。そして、「目・鼻・手」をしっかりと使って活動し、「できた!」「きれい!」「光っている!」「ぴかぴかだ!」というたくさんの「!」を感じてほしい。感じた「?」や「!」を言葉にして伝えたいような楽しい時間にしたい。

8. 単元計画と学習の流れ

【単元計画】（全11時間）

単元導入 土にふれよう（1時間）

- ・土をさわろう

第一次 土で遊ぼう（2時間）

- ・土で遊ぼう

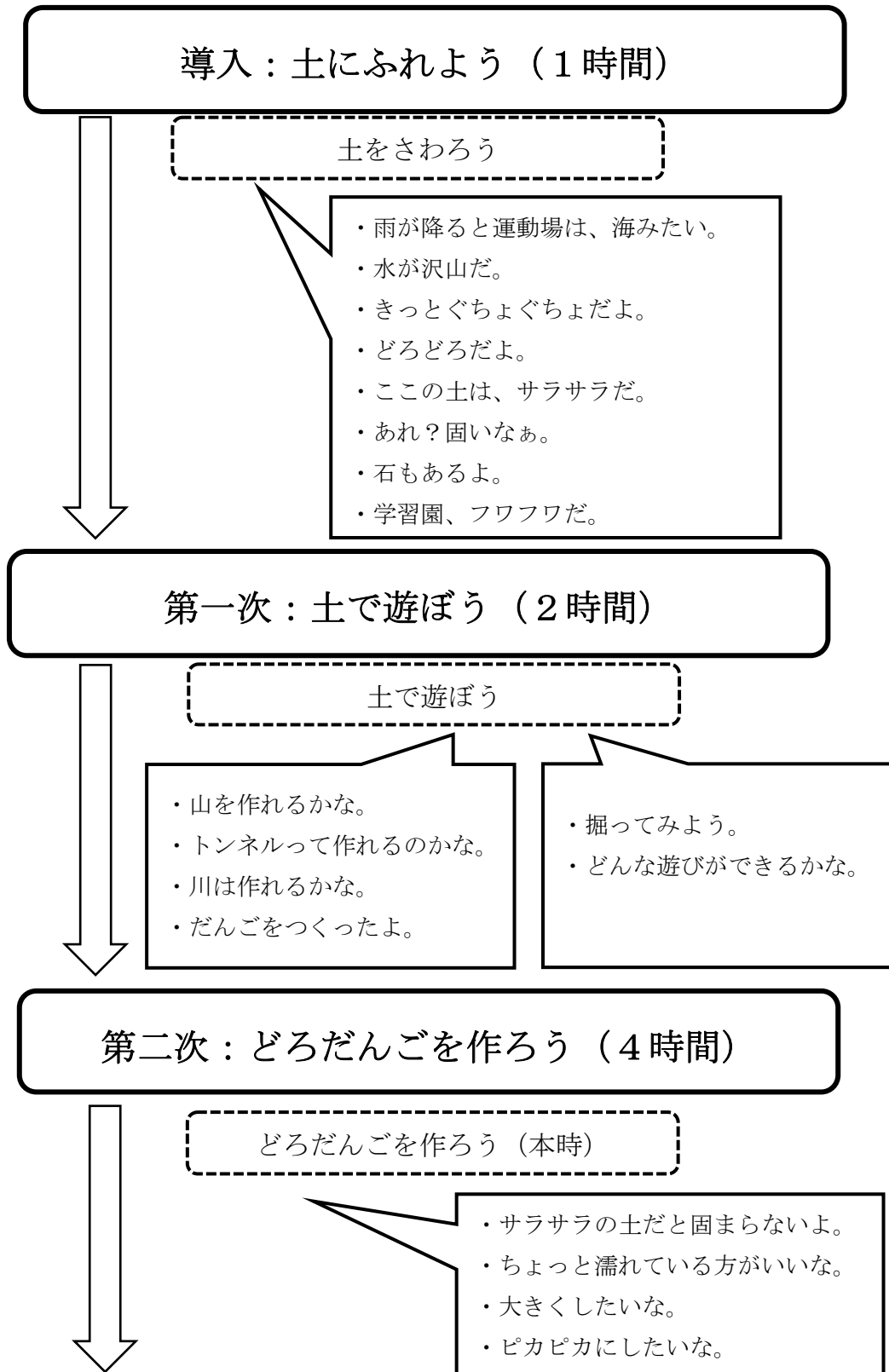
第二次 どろだんごを作ろう（4時間）（本時 2／4）

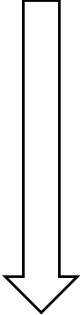
- ・どろだんごを作ろう
- ・どろだんご自慢をしよう

第三次 もっともっと土遊びを工夫しよう（4時間）

- ・土や水でいろいろな遊びを考えよう
- ・土や水でいろいろな遊ぼう

【学習の流れ】





どろだんご自慢をしよう

- ・前より大きく作れたよ。
- ・きれいな形になったよ。
- ・こんなにピカピカになったよ。

第三次：もっともっと土遊びを工夫しよう（4時間）

土や水でいろいろな遊びを考えよう

- ・もっと高い山を作りたいな。
- ・崩れないトンネルを作ろう。
- ・長い川を作ってみよう。
- ・ボウリングをしよう。
- ・ペットボトルを使おう。
- ・プリンカップも使ってみたいな。

土や水でいろいろ遊ぼう

- ・水を流したよ。
- ・川ができたよ。
- ・川がつながったよ。

土っておもしろいね！！

9. 学習活動における評価規準

学習活動	生活科への 関心・意欲・態度	活動や体験について の思考・表現	身近な環境や自分について の気づき
土にふれよう	・土や砂を使った遊びに関心をもっている。		
土遊びをしよう	・土や砂を使った遊びに関心をもち、楽しく遊ぼうとしている。	・土や砂遊びにおいて、自分なりに遊び方を工夫している。	・土や砂で楽しく遊べることに気づいている。
どろだんごを作ろう	・自分の作りたいどろだんごを楽しく作ることができる。	・気づいたことをみんなに伝えることができる。	・土や砂の特性に気づいている。
もっともっと土遊びを工夫しよう	・友だちと関わり合いながら、土や水を使った遊びを楽しんでいる。	・友だちと協力しながら、身の回りの物を利用して遊びを工夫している。	・土や砂の特性を使って、楽しく遊べることに気づいている。

10. 本時までの流れ

導入：土にふれよう

雨が降った日、運動場の様子を窓から観察した。すると、「水がたくさんあって、海みたい。」「きっと地面は、ぐちょぐちょだ。」「川みたいになっているところがある。」などとつぶやいていた。

また、晴れた日に運動場へ行った。学年で育てている野菜を見に行き、草が生えてきていたため、みんなで草抜きを行った。スイカなどを育てている学習園の土は「ふわふわだ。」「草が抜きやすい。」と言っていた。反対に、ピンク門の外で育てているサツマイモ畑の土は「かたいな。」「草が抜きにくいな。」と言っていた。草抜きをしながら、土の違いを感じていた。



第一次：土で遊ぼう

晴れた日に運動場の土で遊んだ。砂場のところで、山を作ったり、穴を掘ったり、トンネルを作っている子がいる子どもがいた。そんな中で、数人の子どもは、タイヤのところで、どろだんごを作っていた。しばらくすると、「私も作りたい。」と言って、どろだんごを作っていく子が増えてきた。半数以上の子どもたちがどろだんごを作っていた。大きくしようとしたり、花や草で模様をつけたりなど、それぞれ思い思いのどろだんごができた。最後に子どもたちに次に「どんなことしてみたい。」か聞くと「どろだんごを作りたい。」という子が多かった。



1 1. 本時の学習について

(1) 目標

- ・自分の作りたいどろだんごを楽しく作ることができる。(関・意)
- ・気づいたことをみんなに伝えることができる。(思・表)

(2) 本時の主張点

子どもたちが、自ら進んで楽しく活動に参加し、「ぴかぴかのどろだんごを作りたい。」など、自分なりの思いをもって、試行錯誤をしながら取り組むことを願っている。土遊びに夢中になり、試行錯誤しながら、何度もどろだんごを作るようになるために、以下のような手立てを行った。

＜本時の手立て＞

- ・諸感覚を使った、自然のものと触れ合い。
- ・自分だけのオリジナルのどろだんご作り。

(自分だけの場所の設定・「どろだんご作り」計画書の作成)

土遊びの面白さを感じる中で、素材の工夫・手順の工夫・友だちとの関わり、といった自立への基礎が養われることを願っている。

(3) 展開

児童の活動	○支援 ●評価
ぼく・わたしだけのどろだんごを作ろう ① どんなどろだんごを作りたいか発表する。 ・ピカピカにしたいよ。 ・大きいだんごを作りたいよ。 ・たくさん作りたいよ。 ② どろだんごを作る。 ・固まってきたよ。 ・何でわれるのかな。 ・あれ。くずれるな。 ・水を多くした方がいいのかな。 ・さらさらの砂を使おうよ。	○自分のめあてを確認することができるように計画書を用意しておく。 ○自分の思うどろだんごが作れるように、それぞれの活動の場を設定し、十分活動できるようにする。 ○水を使っても良いことを伝える。 ○自分の作りたいどろだんごを作ることでできている友だちのどろだんごを見せる。 ●楽しくどろだんごを作ることができる。

③ できたどろだんごについて話し合う。 ・ 丸い形になったよ。 ・ 少し光ってきたよ。 ・ ひびが入ってしまったよ。 ・ 割れてしまったよ。 ・ どうして光ってきたのかな。 ・ もっとぴかぴかにしたいな。	○できたどろだんごについて話し、さらによりよいどろだんごができるように工夫を話し合う。 ●自分の気づいたことをみんなに伝えることができる。
--	---